

平成 28 年度(2016 年度)
建築物環境配慮制度(CASBEE 札幌)届出状況のまとめ

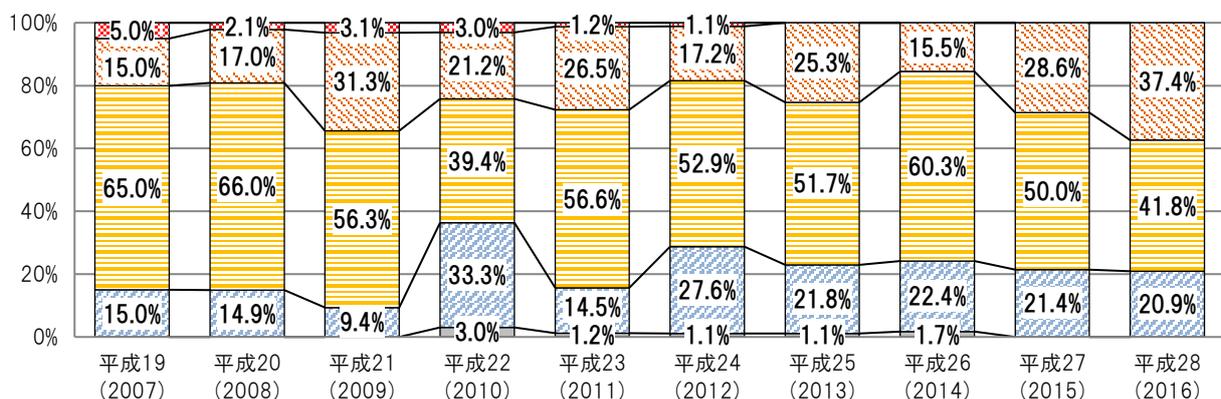
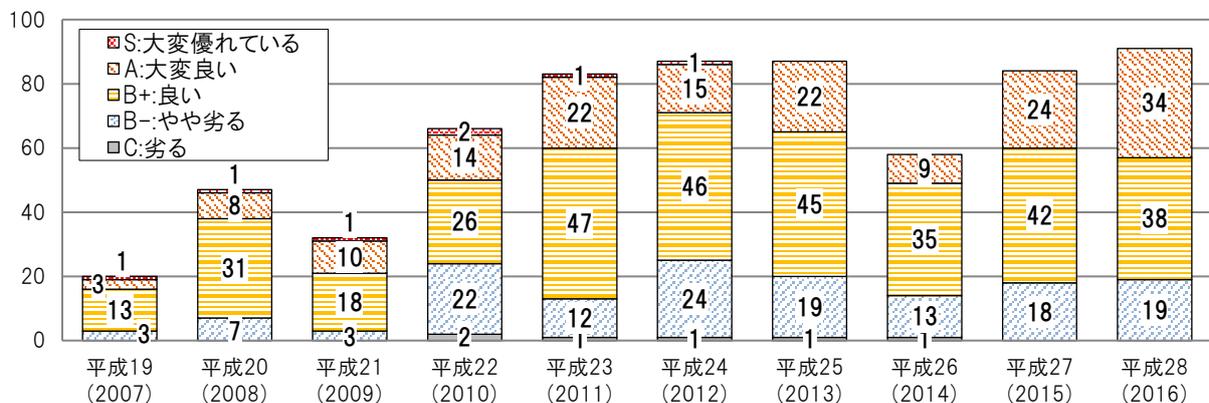
札幌市では、環境に配慮した建築物の推進を目的に建築物環境配慮制度を条例で定めています。この資料は、平成 28 年度(2016 年度)に届出のあった、CASBEE 札幌による自己評価の結果をまとめたものです。

1 平成 28 年度(2016 年度)の届出の概要

- ・ 届出数は 91 件あり、前年度より 8.3%増加しました。
- ・ ランクについては、A(大変良い)が 37.4%で前年度より 8.8%増加し、B+(良い)が 41.8%で前年度より 8.2%減少しました。
- ・ ランク S(大変優れている)は、平成 24 年(2012 年度)以降届出はありません。また、ランク C(劣る)は、平成 27 年度(2014 年度)以降届出がありません。

単位:件

年度	平成 19 (2007)	平成 20 (2008)	平成 21 (2009)	平成 22 (2010)	平成 23 (2011)	平成 24 (2012)	平成 25 (2013)	平成 26 (2014)	平成 27 (2015)	平成 28 (2016)
S:大変優れている	1	1	1	2	1	1	0	0	0	0
A:大変良い	3	8	10	14	22	15	22	9	24	34
B+:良い	13	31	18	26	47	46	45	35	42	38
B-:やや劣る	3	7	3	22	12	24	19	13	18	19
C:劣る	0	0	0	2	1	1	1	1	0	0
合計	20	47	32	66	83	87	87	58	84	91

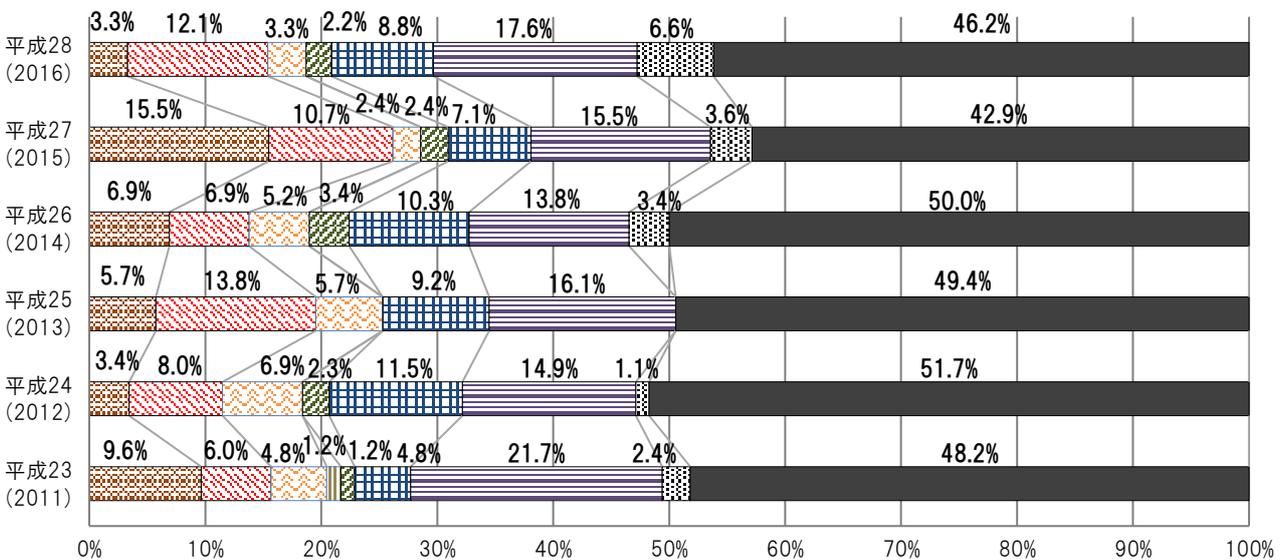
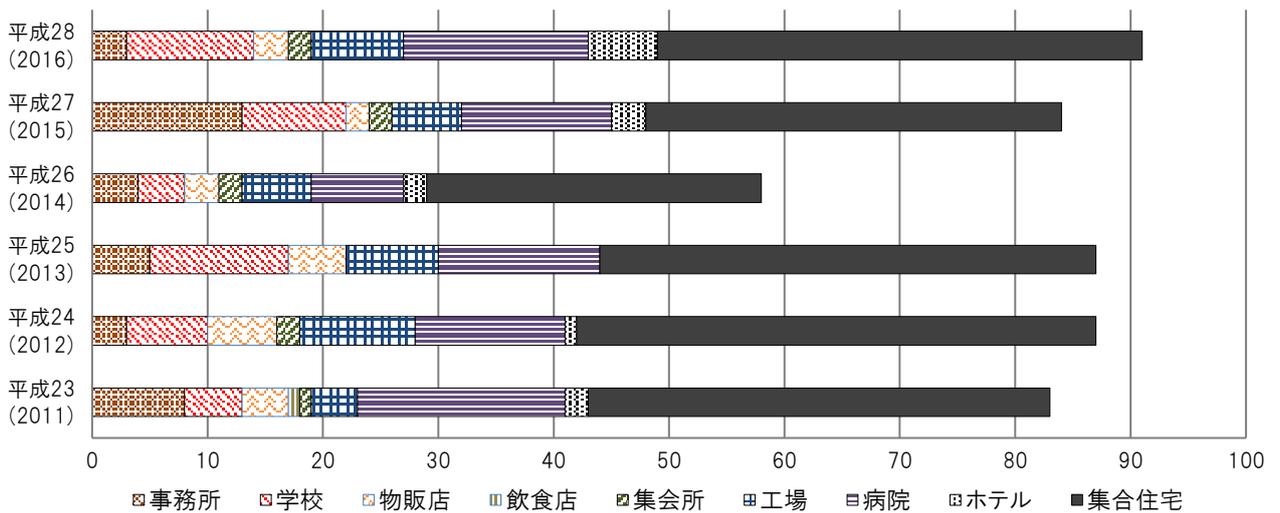


2 建築物用途別の申請数の推移

- ・ 用途別では集合住宅が、42 件と最も多く、次いで病院の 16 件、学校 11 件でした。
- ・ 前年度との比較では、ホテルが前年度より3件増加の6件で、2倍に増えています。また、事務所は前年度より10件減少し3件でした。

単位:件

年度	平成 23 (2011)	平成 24 (2012)	平成 25 (2013)	平成 26 (2014)	平成 27 (2015)	平成 28 (2016)
事務所	8	3	5	4	13	3
学校	5	7	12	4	9	11
物販店	4	6	5	3	2	3
飲食店	1	0	0	0	0	0
集会所	1	2	0	2	2	2
工場	4	10	8	6	6	8
病院	18	13	14	8	13	16
ホテル	2	1	0	2	3	6
集合住宅	40	45	43	29	36	42
合計	83	87	87	58	84	91

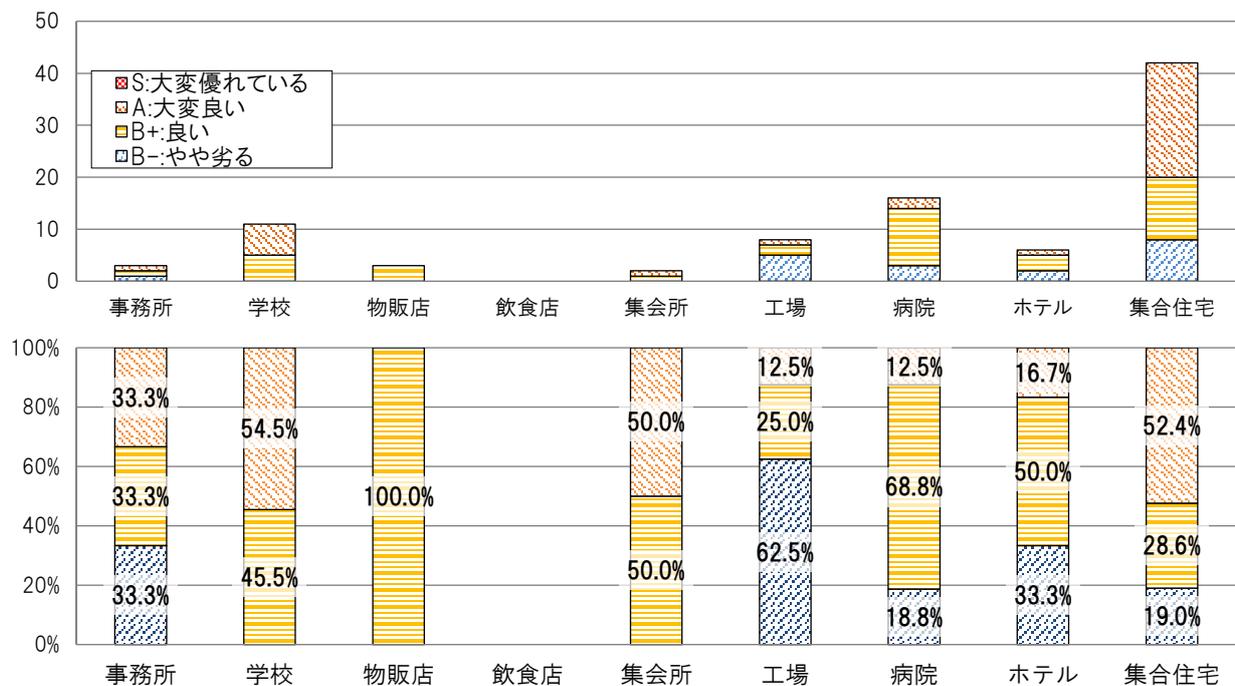


3 建物用途別のランクの変化

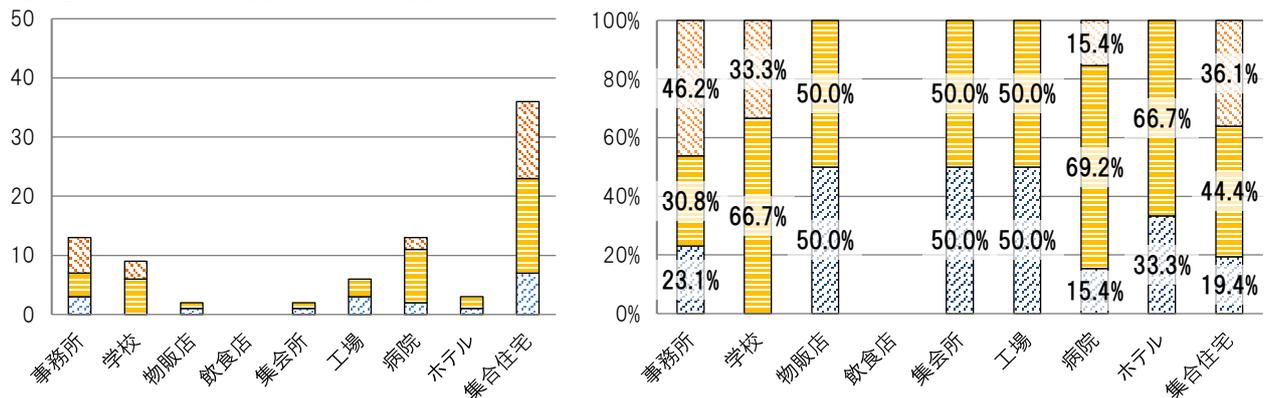
- ・ 集合住宅のうち A ランクは 22 件で、前年度の 13 件から大きく増加しています。また、学校でも A ランクが 6 件で、前年度の 3 件より増加しています。
- ・ 工場では、前年度はなかった A ランクの申請が 1 件ありました。
- ・ 集会所と物販店のランクでは、B-以下の申請はありませんでした。

単位:件

ランク	S:大変優れている	A:大変良い	B+:良い	B-:やや劣る	C:劣る	合計	
事務所	0	1	1	1	0	3	3.3%
学校	0	6	5	0	0	11	12.1%
物販店	0	0	3	0	0	3	3.3%
飲食店	0	0	0	0	0	0	0.0%
集会所	0	1	1	0	0	2	2.2%
工場	0	1	2	5	0	8	8.8%
病院	0	2	11	3	0	16	17.6%
ホテル	0	1	3	2	0	6	6.6%
集合住宅	0	22	12	8	0	42	46.2%
合計	0	34	38	19	0	91	100.0%



(参考)平成 27 年度(2015 年度)の結果



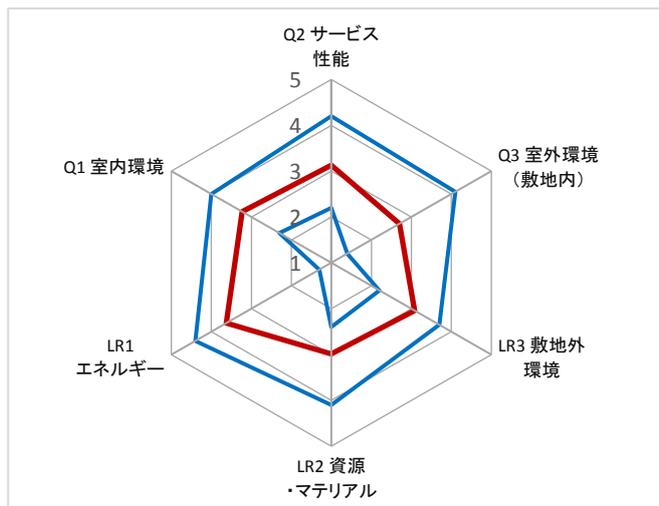
4 配慮項目(大項目)での分析

CASBEE 札幌では、下記の表に示す 6 の配慮項目で評価をしており、評価点は 3 を標準に 1 から 5 までのレベルで行っています。

下記のグラフ・表は昨年度申請のあった建物について、各項目の平均点及び最低、最高点を示したものです。

[概要]

- ・ LR1 エネルギーは平均 3.65 とほかの項目より高いが、最低、最高の差も大きい。
- ・ Q3 室外環境(敷地内)は、平均 2.69 であり標準の 3.00 を下回っている。



全体 件数:90

配慮項目	平均	最低	最高
Q1 室内環境	3.23	2.30	4.00
Q2 サービス性能	3.13	2.20	4.20
Q3 室外環境(敷地内)	2.70	1.40	4.10
LR1 エネルギー	3.63	1.30	4.40
LR2 資源・マテリアル	2.99	2.40	4.10
LR3 敷地外環境	3.08	2.20	3.70

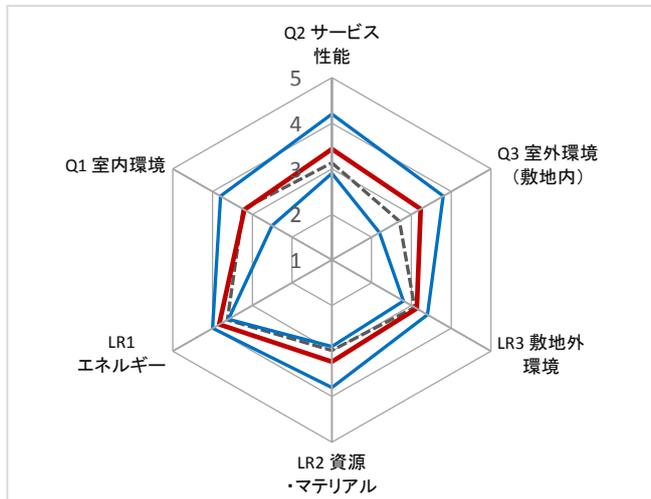
最大・最低:青線 平均:赤線

Q1 室内環境	建物内の騒音レベルや断熱性能、自然光の利用や明るさの制御、室内空気を良好に保つための換気など、居住者の健康、快適性、知的生産性に大きな影響を与える室内環境についての評価
Q2 サービス性能	建物の執務スペースの広さやバリアフリー対応、耐震性や部材の耐用年数、建物内の設備の更新のしやすさや空間のゆとりなど、建物内の利用者の活動や知的生産性への影響また建物が永く良い状態で使い続けるための機能性の評価
Q3 室外環境(敷地内)	建物周囲の緑化確保などや野生生物の生息・創出するための取組、地域のまちなみや景観に対する配慮、集雪場の確保や建築設備の排熱の配慮など、敷地内の屋外環境及び周辺環境に関する環境品質の向上に関する取組の評価
LR1 エネルギー	建物の断熱などの冷暖房の使用エネルギー量の削減の取組、昼光利用などの自然エネルギーの利用、冷暖房設備などの高効率化、エネルギー使用量の計測や運用管理体制などの建物を運用する際に発生するエネルギー消費を低減させる取組の評価
LR2 資源・マテリアル	節水や雨水利用などの取組、建築材料の削減やリサイクル材の使用などの取組、環境に配慮した断熱材(発泡剤)及び冷媒の使用など、建物の建設から解体までのライフサイクルにおける資源・マテリアル消費の低減、及び環境負荷削減へ向けた取組の評価
LR3 敷地外環境	建物の建設・運用・解体で発生する CO2(ライフサイクル CO2)抑制の取り組み、ヒートアイランド化の抑制対策、騒音・振動や光害の対策など、建物及び敷地内から発生する環境負荷が、敷地境界を越えて地球環境、地域環境、周辺環境に及ぼす影響を低減するための取組の評価

なお今回の集計にあたり、増築の 1 件について以前の評価方法(CASBEE2007)で評価を行ったものがあり、評価方法の違いにより比較ができないため、上記の集計からは除外している。

[事務所]

- 全ての配慮項目において、全体の平均を上回っている。LR1 エネルギーにおいては、最低点でも全体の平均とほぼ同じであり、取り組みが進んでいる。
- Q3 室外環境(敷地内)では、集雪場の確保など地域性への配慮、快適性の向上に関して取り組みの差が大きい。



最大・最低:青線 平均:赤線 点線:全体の平均

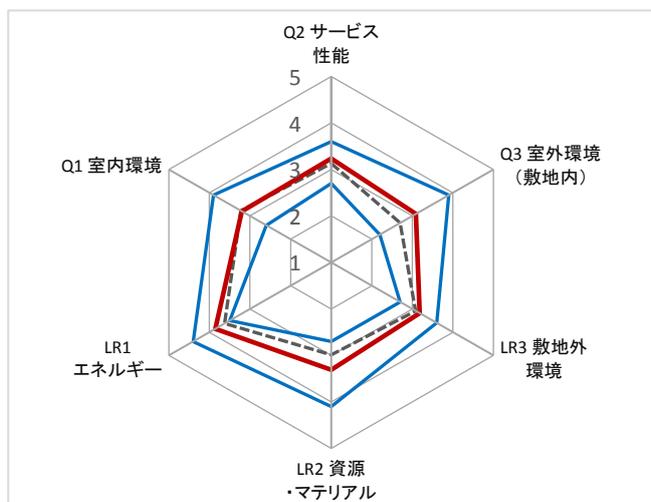
事務所

件数:3

配慮項目	平均	最低	最高
Q1 室内環境	3.20	2.50	3.80
Q2 サービス性能	3.43	2.90	4.20
Q3 室外環境(敷地内)	3.23	2.20	3.80
LR1 エネルギー	3.83	3.60	4.00
LR2 資源・マテリアル	3.23	2.90	3.80
LR3 敷地外環境	3.13	2.80	3.40

[学校]

- 全ての配慮項目で、ほぼ全体の平均より上回っている。
- LR2 資源・マテリアルについて、躯体以外の材料でのリサイクル材の利用などで、取り組みの差が大きい。



最大・最低:青線 平均:赤線 点線:全体の平均

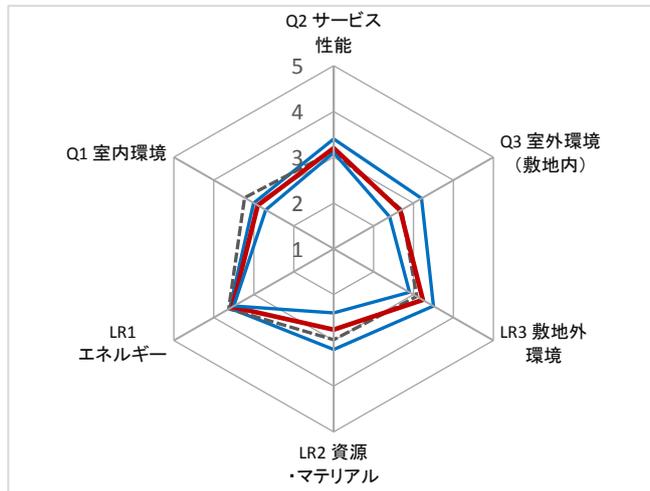
学校

件数:11

配慮項目	平均	最低	最高
Q1 室内環境	3.20	2.60	3.90
Q2 サービス性能	3.24	2.70	3.60
Q3 室外環境(敷地内)	3.09	2.20	3.90
LR1 エネルギー	3.85	3.50	4.40
LR2 資源・マテリアル	3.31	2.70	4.10
LR3 敷地外環境	3.18	2.70	3.60

[物販店]

- ・ LR3 敷地外環境について全体の平均より高い。
- ・ Q1 室内環境について、室内の残響抑制などを目的とした吸音材の使用、及び換気設備の外気からの取り入れ口を排気口や冷却塔などから離す配慮などに関する評価項目が全体の平均より低い。



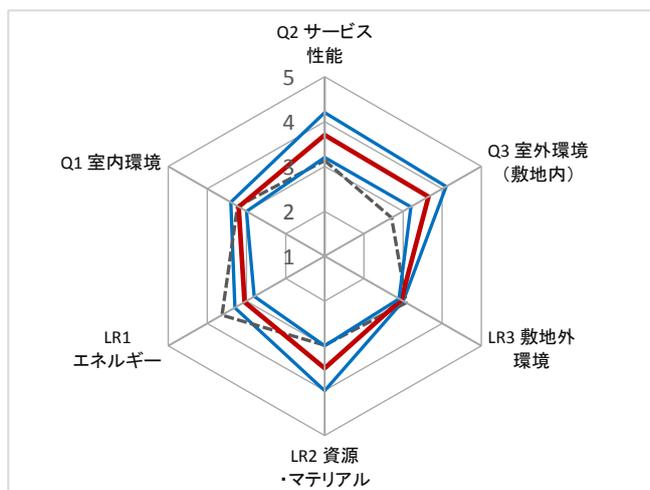
最大・最低:青線 平均:赤線 点線:全体の平均

物販店 件数:3

配慮項目	平均	最低	最高
Q1 室内環境	2.90	2.70	3.00
Q2 サービス性能	3.20	3.10	3.40
Q3 室外環境(敷地内)	2.67	2.40	3.20
LR1 エネルギー	3.53	3.50	3.60
LR2 資源・マテリアル	2.77	2.40	3.20
LR3 敷地外環境	3.23	2.90	3.50

[集会所]

- ・ Q3 室外環境(敷地内)が、全体の平均より高い。
- ・ Q1 室内環境、LR1 エネルギー、LR3 が平均より低い。



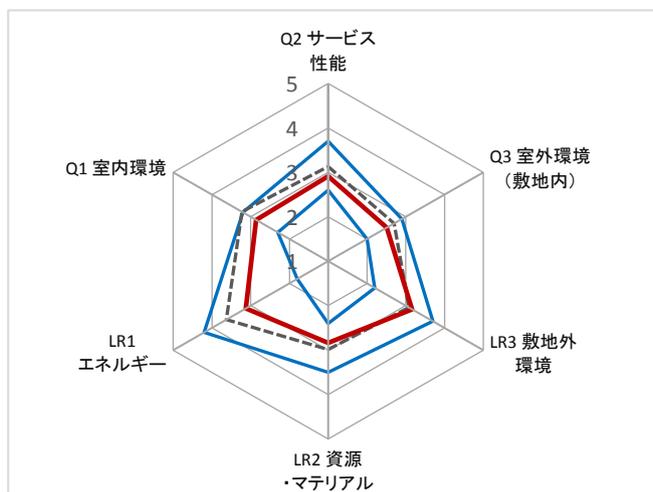
最大・最低:青線 平均:赤線 点線:全体の平均

集会所 件数:2

配慮項目	平均	最低	最高
Q1 室内環境	3.20	3.00	3.40
Q2 サービス性能	3.70	3.20	4.20
Q3 室外環境(敷地内)	3.65	3.20	4.10
LR1 エネルギー	3.05	2.80	3.30
LR2 資源・マテリアル	3.50	3.00	4.00
LR3 敷地外環境	2.95	2.90	3.00

[工場]

- ・ LR3 敷地外環境において、建物の建設・運用・解体で発生する CO2(ライフサイクル CO2)抑制の取り組みや大気汚染対策など項目が、全体の平均よりも高い。
- ・ LR1 エネルギーにおいて、高効率な設備システムの利用や運用管理の体制などの項目について、取組の差が大きい。



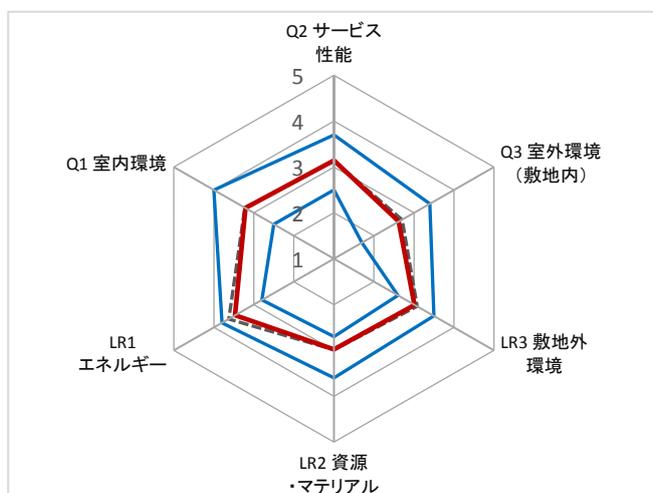
工場 件数:8

配慮項目	平均	最低	最高
Q1 室内環境	2.86	2.30	3.20
Q2 サービス性能	2.91	2.60	3.70
Q3 室外環境 (敷地内)	2.51	2.00	2.90
LR1 エネルギー	3.13	1.80	4.20
LR2 資源 ・マテリアル	2.84	2.40	3.50
LR3 敷地外環境	3.16	2.20	3.70

最大・最低:青線 平均:赤線 点線:全体の平均

[病院]

- ・ Q3 室外環境(敷地内)、集雪場の確保などによる冬季の建物周囲の環境確保や空調設備の排熱の対策などに関する項目について、全体の平均に比べ低い。



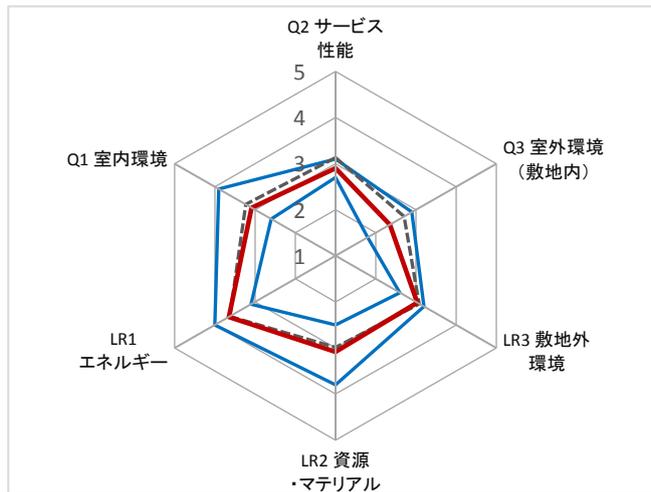
病院 件数:14

配慮項目	平均	最低	最高
Q1 室内環境	3.21	2.50	4.00
Q2 サービス性能	3.14	2.50	3.70
Q3 室外環境 (敷地内)	2.62	1.70	3.40
LR1 エネルギー	3.47	2.80	3.80
LR2 資源 ・マテリアル	2.98	2.70	3.60
LR3 敷地外環境	3.01	2.60	3.50

最大・最低:青線 平均:赤線 点線:全体の平均

[ホテル]

- Q2 サービス性能について、空調機やポンプなどの長寿命化への取組(主要設備機器の更新必要間隔)が、ほかに比べ低いことなどにより、ほかの建物用途に比べ評価点が低い。
- Q3 室外環境(敷地内)について、建物周囲の緑化の取組(生物環境の保全と創出)などが、ほかに比べ低いことなどにより、ほかの建物用途に比べ評価点が低い。

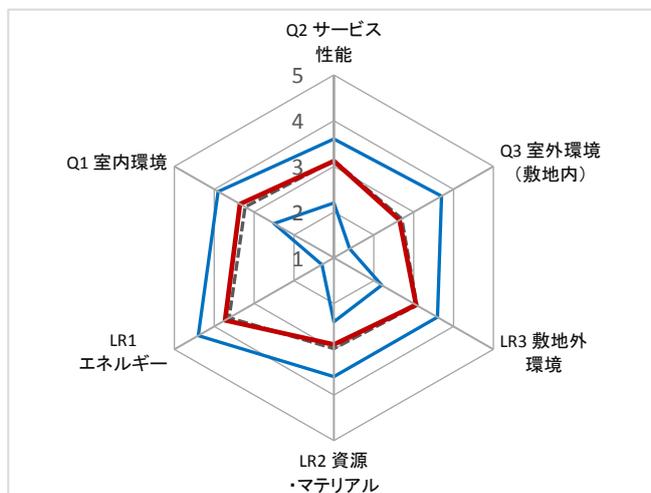


ホテル		件数: 6		
配慮項目	平均	最低	最高	
Q1 室内環境	3.08	2.60	3.90	
Q2 サービス性能	2.90	2.70	3.10	
Q3 室外環境(敷地内)	2.35	1.80	2.90	
LR1 エネルギー	3.65	3.10	4.00	
LR2 資源・マテリアル	3.08	2.50	3.80	
LR3 敷地外環境	3.03	2.60	3.20	

最大: 最低: 青線 平均: 赤線 点線: 全体の平均

[集合住宅]

- LR1 エネルギーについて、外壁や窓の断熱など建物の冷暖房の負荷を抑制する取組(建物外皮の熱負荷抑制)の差などにより、評価に 1.30 から 4.40 までの差がある。
- Q3 室外環境(敷地内)について、集雪場の確保などによる冬季の建物周囲の環境確保などの取組(地域性への配慮、快適性の向上)の差から、評価に差が大きい。



集合住宅		件数: 42		
配慮項目	平均	最低	最高	
Q1 室内環境	3.35	2.50	3.90	
Q2 サービス性能	3.12	2.20	3.60	
Q3 室外環境(敷地内)	2.65	1.40	3.70	
LR1 エネルギー	3.73	1.30	4.40	
LR2 資源・マテリアル	2.90	2.40	3.60	
LR3 敷地外環境	3.06	2.20	3.60	

最大: 最低: 青線 平均: 赤線 点線: 全体の平均